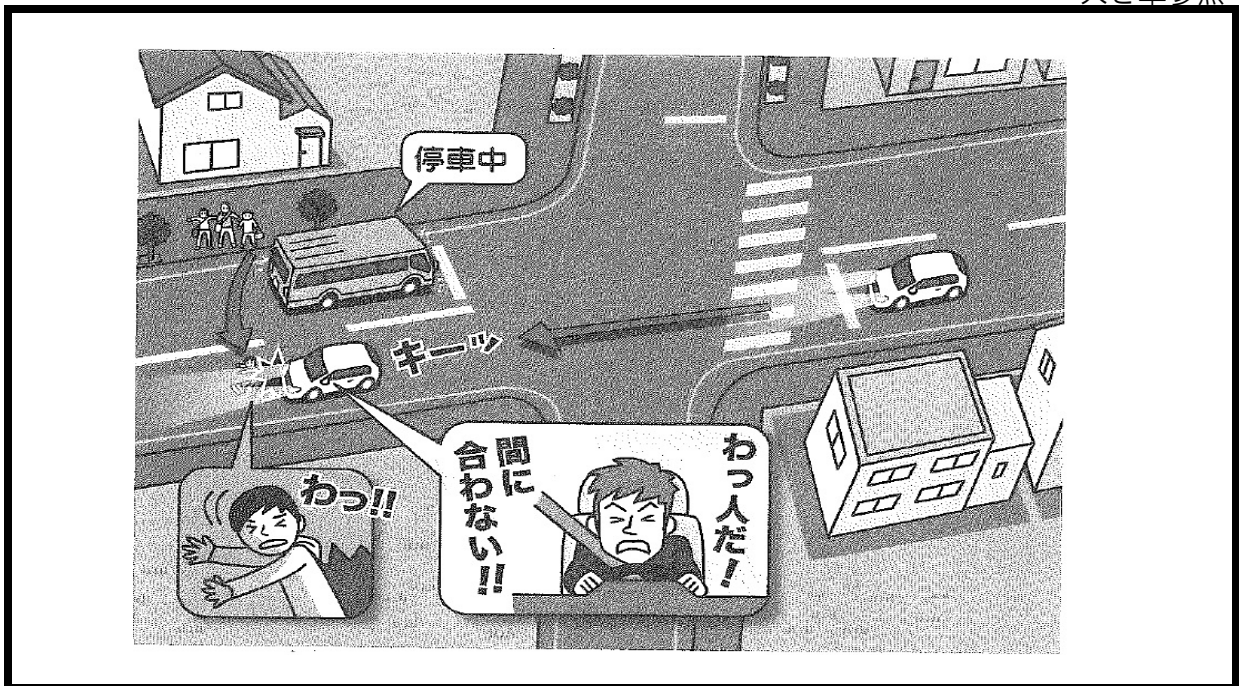


■事故の概況

人と車参照



事故類型：出会い頭

発生日時：夕方 午後5時頃

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：歩行者 小学生 男性

■ 事故の概要

Aは歩道が有る比較的広い往復2車線の住宅街の道路を、閑散としていたこともあり時速約40kmの速度で走っていました。信号機が設置されていない交差点先の対向車線に、1台のマイクロバスがハザードランプを点滅させて止まっていました。Aが何気なくマイクロバスの横を通過しようとした時、突然バスの後ろから小学生のBが飛び出してきました。Aは慌てて急ブレーキを掛けましたが間に合わずBと衝突しました。

Bはスイミングクラブの帰りで、送迎バスから降り、道の反対側にある自宅に帰ろうとバスの後ろから急に飛び出しAと衝突しました。

■ 事故から学ぶ

この事例は、子どもが道路に飛び出したために起きたものです。通常、運転者は危険を認知してからブレーキを踏むまでに0.5秒から1秒くらい掛かり、ブレーキを踏んでもすぐには止まれません。したがって、車を運転する人は、止まれる距離以上先の交通状況をあらかじめ観察し、危険若しくは危険になりそうなものを早く見つけたり予測したりして対処する必要があります。

Bの10歳という年齢は、交通ルールを体得していなければならない年です。交通ルールは守らないと命にかかわる重要なものです。子どもを持つ親や周りの大人達は、子どもが幼い時から交通ルールとそれを守ることの大切さを教えることが必要です。